

I'm dead tired!

Get dressed.

I got caught in a shower on my way to the station.

It was a good game.

Audrey Hepburn is totally beautiful.

Hit me with your best shot.

Please fasten your seatbelt.

消える Gー～ing の G が消えて N で終わります。

まずは聞いてください。

Track15



SINGING IN THE RAIN

CAN'T STOP FALLING IN LOVE

GOING ON

JUMPING AROUND

HAVING A GOOD TIME

G が消えてなくなり、N が次の母音とリエゾンしています。リエゾンは、最初は言いにくいかもしれませんが、何度も繰り返し練習しましょう。特に、日本人はこの語尾の N が苦手です。日本語の「ん」と同じ感覚で発音すると、舌が天井に着かないためリエゾンしません。「んなっ」という響きを意識してください。

最後にもうひとつ、**ほぼ消えてなくなる H** について見てみましょう。

Chapter 12(53 ページ)でも少し触れましたが、H のリダクションは、英語だけではなく多くの言語に見られる現象です。喉がかすれたような「はぁ」というこの音は、リダクションされやすいでしょう。フランス語などでも、H は落ちますね。HOTEL が「オテル」と発音されます。オードブルのスペルは、Hors-d'œuvre です。最初の H を発音しないのです。また、日本語にもこの現象はあります。江戸っ子の話す江戸弁がそうです。江戸っ子は「はひふへほ」が苦手で、「潮干狩り(しおひがり)」のことを「ひおしがり」と言ったり、「消費者(しょうひしゃ)」を焼死者(しょうし

しゃ)と言ってしまうたりします。途中で出てくる H が言いにくいようです。

英語も同じ原理です。途中で出てくる H がほとんど消えてなくなる現象が頻繁に起こります。まずは、聞いてみましょう。

Track15



I don't like her.

Tell him to come here.

Just give her a call.

Sweetheart

H が落ちることで、母音がリエゾンするところに注意しましょう。“like her”は「ライカア」、「Tell him」は「テレム」という感じになります。実際に発音してみるとわかりますが、ここで H を発音しないことで、喉を「ハッ」と鳴らす必要がなくなり、スムーズに次の音に移れます。リエゾン、リダクションの基本原理は、楽に口や舌が動けるために起きる、ということを忘れないでください。

リエゾン、リダクションを訓練して実際に言えるようにすることで、よりネイティブな発音に近づくことができます。また、リスニングアップをはかることに繋がります。最初はなかなか大変かもしれませんが、何度も繰り返し練習するようにしてください。